

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究（2）

— 小学校中学年の歌唱教材を通して —

How to connect the Elementary School Education and Preschool Education (II)

— Through the Teaching Materials for Singing of the Third
and Fourth Grade at the Elementary School Level —

多保田 治 江

要 旨

幼児期の育ちや学びが小学校教育の基盤となると考えられているにもかかわらず、「教育内容のつながり」や「学び方のつながり」の側面から連携の意味をとらえることは少なかったように思われる。金沢市内の小学校で採用されている「音楽の教科書」の中学年の歌唱教材のジャンル、楽譜の種類、音階の種類、拍子、小節数・コーラス数、リズムパターン、開始音、音域、音程関係の9項目の分析結果と先行研究で筆者が作成した幼稚園・保育所で「よくうたわれている子どもの歌ベスト50」・「小学校低学年の歌唱教材」のデータとの比較を通して歌唱教材の系統性や発展性について考察した。その結果、①旋律が伴奏にない伴奏譜に移行する ②数多くのリズムパターンを使用するようになる ③音域が広がる ④広い音程を多く使用するようになるという特徴が分かった。そこで、児童の声の幅を無理なく広げるための指導が求められていることが分かった。

はじめに

就学前にほとんどの子どもたちが幼稚園や保育所で幼児教育を受けている現況において、幼児期の教育を抜きにして小学校教育の成立が考えられなくなってきている。幼児期の育ちや学びが小学校教育の基盤となると考えられるが、「教育内容のつながり」や「学び方のつながり」の側面から連携の意味をとらえることは少なかったように思われる。本学のある金沢市では1校の国立大学附属小学校を除いて、金沢市立小学校59校と私立小学校1校において教育芸術社の音楽教科書「小学生の音楽」を採用している。先行研究で筆者が作成した幼稚園・保育所で「よくうたわれている子どもの歌ベスト50」と「小学校低学年の歌唱教材」のデータとの分析を論じた「小学校教育と幼児教育の連携に関する研究 —小学校低学年の歌唱教材を通して—」¹⁾によって、小学校第1学年の歌唱教材が小学校教育と幼児教育の橋渡しの役目を担っていることが分かった。

今回の小論では小学校教育と幼児教育の連携について、小学校中学年の歌唱教材の分析を通して教材の系統性や発展性を考察することが研究目的である。

1 小学校中学年の指導内容について

「教育基本法」に基づき、学校について定めた「学校教育法」では、小学校教育の目的は「心身の発達に応じて、初等普通教育を施すこと」（学校教育法 第17条）にあり、小学校教育の目標の一つに、「八、生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸等について、基礎的な理解と技能を養うこと」（学校教育法 第18条）が掲げられている。音楽科は、主に第八の条項とのかかわりにおいて教科として成立している。学校教育における児童の音楽指導は、明るく潤いのある生活を送ることに役立つ音楽活動のための基礎的な能力を養うことである。指導の目標を達成するために、具体的にどんな指導内容を、どんな教材を用いて指導するのかを決定しなければならないが、文部科学省の学習指導要領が指導内容の大枠と一部の教材を「共通教材」として示している。²⁾ 第3学年の主となる歌唱教材は、共通教材の「うさぎ」 日本古歌、「茶つみ」（文部省唱歌）、「春の小川」（文部省唱歌）高野辰之 作詞・岡野貞一 作曲、「ふじ山」（文部省唱歌）巖谷小波 作詞の中から3曲を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う楽曲、第4学年の主となる歌唱教材は、共通教材の「さくらさくら」日本古歌、「とんび」 葛原しげる 作詞・梁田 貞 作曲・石桁冬樹 編曲、「まきばの朝」（文部省唱歌）船橋栄吉 作曲、「もみじ」（文部省唱歌）高野辰之 作詞・岡野貞一 作曲・中野義見 編曲の中から3曲を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う楽曲を取り扱う。また、国歌「君が代」はいずれの学年においても指導することや長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを取り上げるようにすることの2点が内容の取扱いにおける配慮事項とされている。

今回分析を行った教科書は、学習指導要領の内容を機能的に関連させ設定した題材は各学年とも7つにまとめられ、6年間を通して段階的・系統的な学習ができるように配列している。³⁾ 小学校中学年の全体目標を「進んで」とし、次のような三層構造の題材構成になっている。題材のねらいを達成するために複数の教材が配属されている。

		中学年 [進んで]	
		3年	4年
導入的音楽学習	導入	階名になれよう	歌と楽器のひびきを合わせよう 日本の音楽に親しまよう
	いろいろな音楽との出会い	リコーダーに親しまよう	
深まる音楽学習	各学年の重点事項 (音楽も三要素)	ふしのとくちょうを感じ取ろう	音をきき合って合わせよう 生き生きと歌おう
	音色	いろいろな音のちがいを感知取ろう	
	曲想・イメージ	曲の気分を感じ取ろう	
広がる音楽学習	合唱・合奏		
	まとめ		

(小学生の音楽3 指導書 研究編 P.10~11より)

II 教材の楽譜分析

1. 分析対象曲

対象曲は「小学生の音楽 3」⁴⁾に収録されている27曲と「小学生の音楽 4」⁵⁾に収録されている28曲を用いた。

2. 分析方法

歌のジャンル、楽譜の種類、音階の種類、拍子、小節数・コーラス数、リズムパターン、開始音、音域、音程関係の9項目について分析を行った。

3. 結果と考察

これまでの音楽経験とのつながりつまり系統性や発展性について、対象曲の分析結果と2つの分析結果との比較を通して考察した。1つは「小学校低学年の歌唱教材」の分析結果⁶⁾、もう1つは幼稚園・保育所でよくうたわれている子どものうたを調査し、先行研究で作成した「よくうたわれている子どものうたベスト50」⁷⁾である。

○歌のジャンル

幼稚園・保育所では小学校の共通歌唱教材のような一定の基準がないために、各々独自に様々な内容で歌う活動が行われているので選曲される歌もまちまちな状態である。「よくうたわれている子どものうたベスト50」は幼稚園・保育所から回答のあった総数459曲の子どものうたから作成したものである。その中で1位だったのは歌のジャンルが「季節・行事・自然」の「こいのぼり」であった。幼児期は子どもたちの日常の保育と音楽活動が切り離せない関係になっている。一方、小学校低学年の全体目標を「楽しく」とし、題材が第1学年では「うたでともだちをつくろう」、第2学年では「うたでともだちのわをひろげよう」のねらいを達成するための教材が選曲されているので、歌のジャンルは友達と楽しく歌うことができる「生活・遊び」のウェイトが大きくなっている。今回分析を行った小学校中学年は、「進んで」を全体目標とし、「旋律の特徴や音色に気を付けて歌唱や器楽による表現や鑑賞を楽しむことができるようにする」ことに重点を置いて教材が選曲されている。

	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4	よくうたわれている 子どものうたベスト50	小学校低学年
生活・遊び	11曲 (41%)	14曲 (50%)	20曲 (40%)	28曲 (44%)
季節・行事・ 自然	7曲 (26%)	7曲 (25%)	17曲 (34%)	16曲 (25%)
動物・植物・ 食物・乗り物	8曲 (30%)	6曲 (21%)	13曲 (26%)	15曲 (24%)
その他	1曲 (4%)	1曲 (4%)	0	4曲 (6%)
計	27曲	28曲	50曲	63曲

※「小学校低学年」とは「小学生のおんがく 1」・「小学生の音楽 2」に収録されている教材を示す

「小学生のおんがく 1」⁸⁾ に収録されている歌唱教材のうち12曲、「小学生の音楽 2」⁹⁾ に収録されている歌唱教材のうち2曲が「よくうたわれている子どものうたベスト50」と重複していた。しかし、「小学生の音楽 3」「小学生の音楽 4」に収録されている歌唱教材には「よくうたわれている子どものうたベスト50」と重複する曲が1曲もなかった。しかしながら、「小学生の音楽 3」に収録されている曲の中で「せかいじゅうの子どもたちは」は55園（幼稚園26園・保育所29園）で歌われていた。また、「七つの子」は1園の保育所で歌われていた。一方「小学生の音楽 4」に収録されている曲では「子どもの世界」が38園（幼稚園18園・保育所20園）で歌われていた。この歌は幼児教育の場では「小さな世界」という題名で知られ、原曲名は「It's a small World」である。また、「おどろう楽しいポーレチケ」は13園（幼稚園8園・保育所5園）の3歳以上児対象に歌われていた。

○楽譜の種類

歌う時に演奏される伴奏によって、児童は楽曲の雰囲気や音楽を特徴付けている要素を感じ取ることができる。

そこで対象曲の伴奏譜の種類の分析を行った。

楽譜を次の4種類に分けることとする。

- 一段楽譜 …… 遊び歌の楽譜によく見られる旋律だけの楽譜
- 二段楽譜 …… 大譜表で書かれ、右手旋律・左手伴奏の楽譜
- 三段楽譜 …… 旋律のパートが一段と伴奏パートが大譜表で書かれた楽譜

A：伴奏パートの右手和音の上声部が旋律の楽譜

B：伴奏パートに旋律がない楽譜

(例えば、コードに合わせ両手でリズムを刻むように書かれた楽譜)

	小学生の音楽 3 旋律が伴奏にあるもの		小学生の音楽 4 旋律が伴奏にあるもの	
一段楽譜	0		0	
二段楽譜	0	} 10 旋律が伴奏にないもの	0	} 4 旋律が伴奏にないもの
三段楽譜 A	4		3	
	6*		1*	
三段楽譜 B	17	17	24	24
計	27曲		計 28曲	

* 三段楽譜 A と三段楽譜 B の併用型…部分的にコードで書かれ旋律がないもの

「小学生の音楽 3」27曲、「小学生の音楽 4」28曲ともに伴奏譜が全曲に付けられている。「小学生の音楽 3」の伴奏譜27曲の中で、旋律が伴奏で演奏されるもの37%、そうでないもの

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究 (2)

63%の比率であった。また、「小学生の音楽 4」の伴奏譜28曲の中で、旋律が伴奏で演奏されるもの14%、そうでないもの86%と旋律が伴奏で演奏されないものが圧倒的に多かった。一方、「よくうたわれている子どものうた50」では伴奏譜がある41曲の中で、旋律が伴奏で演奏されるもの71%、そうでないもの29%と旋律が伴奏で演奏されるものが圧倒的に多かった。

ここまでの経過を辿ると、一段楽譜は「小学生の音楽 2」に収録されている朝鮮半島の遊び歌「こめ むぎあそびうた」と日本の遊び歌「おちゃらかほい」の2曲があった。「小学生のおんがく 1」では伴奏譜が34曲全曲に付けられている。伴奏譜のスタイルは旋律が伴奏で演奏されるもの47%、そうでないもの53%とわずかな差しかなかった。また、「小学生の音楽 2」の伴奏譜がある27曲の中で、旋律が伴奏で演奏されるもの15%、そうでないもの85%と旋律が伴奏で演奏されないものが圧倒的に多かった。この結果から徐々に旋律が伴奏で演奏されないものに移行していることが分かった。

○音階の種類

音階の種類		曲数	
長音階	短音階	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4
C dur		9曲	12曲
F dur		5曲	8曲
G dur		9曲	3曲
	a moll	0曲	1曲
B dur		1曲	1曲
わらべ歌の音組織		1曲	0曲
日本の音階		2曲	3曲
計		27曲	28曲

使用されていた音階の種類は、長音階・短音階・わらべ歌の音組織・日本の音階であった。「小学生の音楽 3」ではCdur、Gdur、Fdurの順で23曲あり、全体の85%を占めた。「小学生の音楽 4」ではCdur、Fdur、Gdurの順で23曲あり、全体の82%を占めた。短音階の歌は「風のカーニバル」1曲のみであった。「よくうたわれている子どものうた50」ではFdurが一番多く使用されていた。これは小学校中学年からCdurの楽譜を見て旋律を視唱する学習が始まるために低学年、中学年ともにCdurの使用が多いと推察される。「よくうたわれている子どものうた50」・「小学校低学年の歌唱教材」では、短音階の歌はどちらも「うれしいひなまつり」の1曲のみであった。

○拍子

2拍子系の教材が「小学生の音楽 3」では24曲(89%)、「小学生の音楽 4」では25曲(89%)と圧倒的に多かった。この傾向は「よくうたわれている子どものうた50」「小学校低学年の教材」においても同様であった。3拍子系の教材は「小学生の音楽 3」では「さよなら」「エーデルワイス」「あの雲のように」の3曲、「小学生の音楽 4」では「あたらしい えがお」「おどろう楽しいポーレチケ」「せいくらべ」の3曲であった。

	拍子の種類	曲 数			
		小学生の音楽 3		小学生の音楽 4	
2拍子系	4分の2拍子	4曲	24曲	3曲	25曲
	4分の4拍子	20曲		21曲	
	8分の6拍子	0曲		1曲	
3拍子系	4分の3拍子	3曲	3曲	3曲	3曲
計		27曲		28曲	

○小節数・コーラス数

小 節 数 ・ コ ー ラ ス 数	曲 数	
	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4
8×1 2/0・8×2 1/0 8×3 1/1・8×4 0/1	4曲	2曲
9×1	1曲	0曲
11×1 1/1	1曲	1曲
12×2 1/2・12×3 0/1 12×4 0/1	1曲	4曲
13×2	1曲	0曲
14×1 0/1・14×3 0/1	0曲	2曲
16×1 3/1・16×2 8/6 16×3 0/1	11曲	8曲
17×3	0曲	1曲
18×3	1曲	0曲
20×2 0/1・20×3 0/1	0曲	2曲
24×1 1/0・24×2 2/2 24×3 1/1	4曲	3曲
28×2	0曲	2曲
32×1 1/1・32×2 1/0	2曲	1曲
34×2	0曲	1曲
48×2	0曲	1曲
54×1	1曲	0曲
計	27曲	28曲

小学校中学年からこれまでの教師の範唱や模唱に頼らずに児童が歌うための基礎づくりをする時期である。移行期の子どもたちに無理のないような教材選曲が求められる。小節数・コーラス数など曲の長さも影響を与える要因と考えられる。

1コーラス8小節の中で歌の持ち味を表現しなくてはならない教材は、「小学生の音楽 3」に収録されている「ドレミで歌おう」「かりかりわたれ」の2曲であった。この2曲は階名唱やリコーダーなど3年生になって新しく始める内容のために8小節の短い教材となったと推察される。一方、最も長い教材は「小学生の音楽 4」に収録されている「子どもの世界」で96小節かけて歌うものであった。「よくうたわれている子どものうた50」では「おもいでのアльバム」(102小節)、「小学校低学年の歌唱教材」では「ドレミのうた」(107小節)に比べると少々短くなったと言える。

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究(2)

小節数が4の倍数で作曲された教材が「小学生の音楽 3」では24曲(89%)、「小学生の音楽 4」では24曲(86%)であったことが特徴である。

○リズムパターン

パターン数	曲数		パターン数	曲数	
	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4		小学生の音楽 3	小学生の音楽 4
2	3曲	0曲	9	2曲	2曲
3	2曲	0曲	10	1曲	1曲
4	1曲	6曲	11	3曲	2曲
5	4曲	4曲	12	1曲	0曲
6	4曲	4曲	13	2曲	1曲
7	1曲	4曲	14	0曲	1曲
8	3曲	2曲	18	0曲	1曲
			計	27曲	28曲

教材毎に使用されているリズムパターンを調べた結果、「小学生の音楽 3」に収録されている教材では「春の小川」(16小節)・「ドレミで歌おう」(8小節)・「かりかりわたれ」(8小節)の2パターンから「ももくり三年 かき八年」(24小節)・「山ねこバンガロー」(16小節)の13パターンまで使用されていた。「小学生の音楽 4」に収録されている教材では「とんび」(16小節)・「冬の歌」(24小節)・「おどろう楽しいポーレチケ」(12小節)・「茶色の小びん」(16小節)・「せいくらべ」(24小節)・「つるのおん返し」(8小節)の4パターンから「空と風のきっぷ」(28小節)の18パターンまで使用されていた。小学校中学年では4パターンから6パターンで作られた教材曲が23曲(42%)と多かった。小節数と使用されているリズムパターンの比率の面から特徴のある教材は「小学生の音楽 3」に収録されている「かえるのふえ」(13小節で11のリズムパターンの使用)であった。この教材は世代を超えて歌い継いでいきたい唱歌や童謡として選曲された教材でかえるの声を笛に例え、リズムを生かして作曲されているので多くのリズムパターンが使用されたと推察される。「よくうたわれている子どものうた50」・「小学校低学年の歌唱教材」ではリズムパターンが4パターンの使用が多かったのでリズムパターンは増加の傾向を示した。

次に、拍子別にリズムパターンを調べた。「小学生の音楽 3」に収録されている20曲ある4分の4拍子の教材には86種類のリズムパターン、4曲ある4分の2拍子の教材には13種類のリズムパターン、3曲ある4分の3拍子の教材には7種類のリズムパターンが使用されていた。一方、「小学生の音楽 4」に収録されている21曲ある4分の4拍子の教材には98種類のリズムパターン、3曲ある4分の2拍子の教材には14種類のリズムパターン、1曲の8分の6拍子には6種類のリズムパターン、3曲ある4分の3拍子の教材には16種類のリズムパターンが使用されていた。「よくうたわれている子どものうた50」・「小学校低学年の歌唱教材」では4分の2拍子の教材が多いにもかかわらず、4分の4拍子の教材のリズムパターンが分散化しているためにリズムパターンが多いという傾向を示したが、「小学生の音楽 3」・「小学生の音楽 4」では2拍子系の中でも4分の4拍子の教材が多く収録されているためにリズムパターンもこれまでに多く使用されていた。(なお、1曲中に同じリズムパターンが現れても1回として扱った。)

多保田 治 江

◆ 4分の4拍子で多いリズムパターン (小学生の音楽 3 20曲、小学生の音楽 4 21曲)



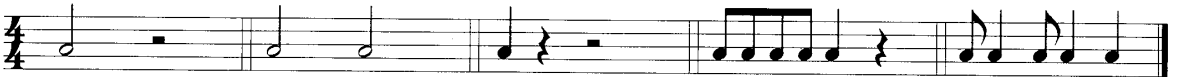
① 10 ② 9 ③ 7 ③ 7 ⑤ 4
② 11 ② 7 ⑤ 4 2 ⑨ 3



⑤ 4 ⑤ 4 ⑧ 3 ⑧ 3 ⑧ 3
⑨ 3 2 ③ 5 ⑤ 4 ⑨ 3



⑧ 3 ⑧ 3 ⑧ 3 ⑧ 3 ⑧ 3
2 2 2 2 2



⑧ 3 2 2 2 2
0 ③ 5 ⑤ 4 ⑤ 4 ⑨ 3



2 2 2 1 1
⑨ 3 ⑨ 3 ⑨ 3 ⑨ 3 ⑨ 3



0 0 0 0
⑨ 3 ⑨ 3 ⑨ 3 ⑨ 3

◆ 4分の3拍子で多いリズムパターン (小学生の音楽 3 3曲、小学生の音楽 4 3曲)

① 3 ① 3 ② 2 ② 2
 ① 2 ② 1 ① 2 ② 1

◆ 4分の2拍子で多いリズムパターン (小学生の音楽 3 4曲、小学生の音楽 4 3曲)

① 4 ① 4 ③ 3 ④ 2 ④ 2
 1 1 ① 2 ① 2 ① 2

④ 2 ④ 2 ④ 2 1
 0 0 0 ① 2

○開始音と音域

最も音域の広い教材は1オクターブと完全4度の隔たりがあり、「小学生の音楽 3」では「かえるのふえ」「七つの子」の2曲、「小学生の音楽 4」では「子どもの世界」「グッデー グッバイ」「みかんの花さくおか」の3曲であった。

最も音域の狭い教材は「小学生の音楽 3」では「かりかりわたれ」(完全4度)、「小学生の音楽 4」では「音のカーニバル」(長6度)であった。音域の流れを辿ると「よくうたわれている子どものうた50」で最も音域の広いものは「雨ふりくまの子」「大きな古時計」「犬のおまわりさん」「とんでったバナナ」の1オクターブと短3度、「小学生のおんがく 1」では「犬のおまわりさん」の1オクターブと短3度、「小学生の音楽 2」では、「シャボン玉」「夕日」の1オクターブと完全4度と徐々に広がっていくことが分かる。

「小学生の音楽 3」の旋律の開始音では h^1 (5曲)、 $d^1 \cdot f^1$ (4曲)、 $c^1 \cdot e^1 \cdot g^1$ (3曲)の順、「小学生の音楽 4」では $e^1 \cdot g^1$ (6曲)、 c^1 (4曲)、 $a^1 \cdot c^2$ (3曲)の順であった。また、「小学生の音楽 3」の最も低い開始音の教材は c^1 の「ドレミで歌おう」「ちびっこカウボーイ」「あの青い空のように」の3曲、最も高い開始音は d^2 の「かりかりわたれ」であった。「小学生の音楽 4」の最も低い開始音の教材は h の「子どもの世界」、最も高い開始音は c^2 の「友だちシンドバット」「歌よ ひびけ」「ゆりかごの歌」の3曲であった。開始音の流れを辿ると徐々に高音が使用されていることが分かる。

音 域	小学生の音楽 3		小学生の音楽 4	
	曲 数	開 始 音	曲 数	開 始 音
a-d ²	0曲		1曲	h
b-es ²	1曲	f ¹	1曲	f ¹
h-e ²	1曲	h ¹	1曲	e ¹
h-c ²	0曲		2曲	a ¹ ・h ¹
h-h ¹	1曲	d ¹	0曲	
c ¹ -d ²	6曲	c ¹ 2・d ¹ ・f ¹ 2・g ¹	12曲	c ¹ 3・d ¹ ・e ¹ ・f ¹ ・g ¹ 3・a ¹ ・c ² 2
c ¹ -c ²	7曲	c ¹ ・e ¹ 2・g ¹ ・a ¹ 2・c ²	3曲	c ¹ ・e ¹ 2
d ¹ -d ²	4曲	d ¹ 2・h ¹ 2	2曲	e ¹ ・h ¹
d ¹ -c ²	2曲	f ¹ ・g ¹	1曲	g ¹
e ¹ -e ²	0曲		2曲	e ¹ ・g ¹
e ¹ -d ²	2曲	e ¹ ・c ²	1曲	c ²
f ¹ -d ²	0曲		1曲	a ¹
g ¹ -f ²	0曲		1曲	g ¹ 1
g ¹ -d ²	2曲	h ¹ 2	0曲	
a ¹ -d ²	1曲	d ²	0曲	
計	27曲		28曲	

○音程関係

分析方法は旋律各2音間の音程において完全1度の関係を0とし、短2度の関係を0.5という数値で音の隔たりを示した。音程関係1（長2度）と音程関係0（完全1度）が多く使用されており、「小学生の音楽 3」では両者で全体の60%、「小学生の音楽 4」では全体の58%を占めた。音程関係の流れを辿ると「よくうたわれている子どものうた50」の特徴として遊び歌（手遊び歌やわらべ歌）が含まれているために音程関係0（完全1度）の使用頻度が高かった。一方「小学校低学年の歌唱教材」、「小学校中学年の歌唱教材」では音程関係1（長2度）の使用頻度が高かった。

音 程	小学生の音楽 3		小学生の音楽 4		音 程	小学生の音楽 3		小学生の音楽 4	
	使用頻度	使用率	使用頻度	使用率		使用頻度	使用率	使用頻度	使用率
0	365	22.55	430	23.79	3.5	20	1.23	33	1.82
0.5	203	12.54	223	12.34	4	2	0.12	11	0.60
1	602	37.20	620	34.31	4.5	12	0.74	17	0.94
1.5	228	14.09	206	11.40	5	4	0.24	12	0.66
2	86	5.31	97	5.36	5.5	0	0	0	0
2.5	92	5.68	148	8.19	6	3	0.18	7	0.38
3	1	0.06	3	0.16	総 数	1,618	100.0	1,807	100.0

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究(2)

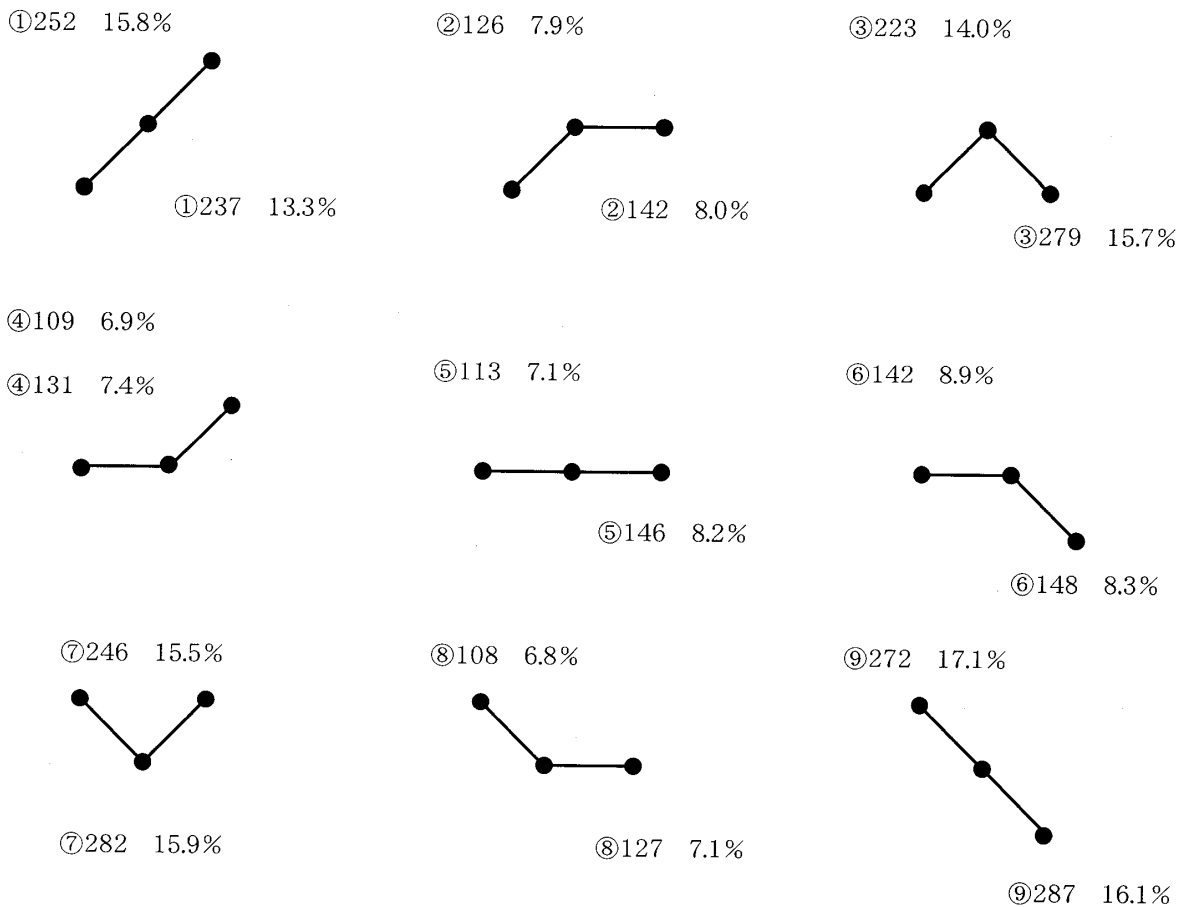
		小学生の音楽 3																3音間の音程関係のクロス集計															
音程 I	音程 II	-6	-5.5	-5	-4.5	-4	-3.5	-3	-2.5	-2	-1.5	-1	-0.5	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6							
6													1																				
5.5																																	
5													1																				
4.5										1		5		4		1																	
4														1																			
3.5											3	3		3			1																
3																																	
2.5									3	2	8	8	6	32		10		1															
2										4		11		4	2	2	3																
1.5									4		13	2	9	22		23	1	7	7		4		4										
1			1	1		3	1	2	13	6	72	3	48	42	66	21		7															
0.5	2		1		1			3		7	3	20	18	6	34	3	1																
0						2		6	6	36	67	25	113	21	50	16	5	15					1			1							
-0.5						1			9		48		8	29		6		1															
-1						4		6	2	39	58	33	52		66	7	9	18		4		3											
-1.5								1	20		26		27	3	5	34	1	8															
-2			1					1		13	1	3	9		15		5	5					2										
-2.5											4		8		9	1		3		1													
-3													1																				
-3.5										1	1		2		3							1		1									
-4																1																	
-4.5																						1											
-5													1			1	1																
-5.5																																	
-6																1		1															

		小学生の音楽 4																3音間の音程関係のクロス集計															
音程 I	音程 II	-6	-5.5	-5	-4.5	-4	-3.5	-3	-2.5	-2	-1.5	-1	-0.5	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6							
6		1								1		1		1																			
5.5																																	
5													3	2		1																	
4.5					1					6	3	2		1			2																
4						1				1	1		3	1																			
3.5							1			3	5	6		2		1	1																
3												1																					
2.5									7	1	11	13	14	25		9	5	3	1														
2										3		10		17	5		3																
1.5									9		14	9	6	8		23	1	3	4														
1		1		3			3		11	12	11	76		54	29	44	31		12					2									
0.5									1		1		22	31		44		8	1	1	1		2										
0				3	2		6		15	14	32	58	18	146	20	55	12	8	23		8	1	3			1							
-0.5										7		48		15	27		3		1			1		2									
-1						1	7		6	4	40	66	30	63		70		7	14		5	2	1			3							
-1.5										8	1	37		16	26	8	13		13		2	3	1										
-2										8		4		10	5		15		9	3		1		1		1							
-2.5											3	7		20		9	3		13		1	1		1									
-3																																	
-3.5														7	2			1	1		1		2	3									
-4															1	1																	
-4.5																	2						1										
-5														1	2	2	1																
-5.5																																	
-6														1			1																

※ 音程 I 3音間の1-2の音程、音程 II 3音間の2-3の音程

次に、旋律を構成する3音間の音程関係を調べ集計した。これは、3音の流れの特徴を掴むためである。旋律の流れの上昇はプラス、下降はマイナスとして分析した。旋律を構成する3音間の音程関係は①上昇 → 上昇、②上昇 → 同音、③上昇 → 下降、④同音 → 上昇、⑤同音 → 同音、⑥同音 → 下降、⑦下降 → 上昇、⑧下降 → 同音、⑨下降 → 下降の9パターンがあり、分析結果が次である。

◆音程9パターンの使用頻度（上段：小学生の音楽 3、下段：小学生の音楽 4）



3音の流れが下降する⑨パターンと下降し上昇する⑦のパターンが多く使用され、反対に下降して同音に進む⑧パターンや同音から上昇する④パターンが少なかった。これは「小学校低学年の歌唱教材」でも同様であった。

音程の隔たりが広い教材は次の27曲であった。

◆音程の隔たりが広い教材

曲名	学年	音程Ⅰ	音程Ⅱ	使用音名
林の朝	4	-6	0	c ² -c ¹ -c ¹
せかいじゅうの子どもたちが	3	-6	+1	d ² -d ¹ -e ¹
茶色の小びん	4	-6	+1.5	e ² -e ¹ -g ¹
海風きって	3	-6	+2	c ² -c ¹ -e ¹

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究 (2)

曲名	学年	音程 I	音程 II	使用音名
ゴー ゴー ゴー	3	-5	0	$b^2 - c^1 - c^1$
グッデー グッバイ	4	-5	0	$a^1 - h - h$
歌のにじ	4	-5	+0.5	} $d^2 - e^1 - f^1$
友だちシンドバット	4	-5	+0.5	
いろいろな木の実	4	-5	+1	$c^2 - d^1 - e^1$ (2回)
君が代	全	-5	+1.5	$d^2 - e^1 - g^1$
ちびっこカウボーイ	3	-5	+2	$b^2 - c^1 - e^1$
子どもの世界	4	-4.5	+1	$fis^1 - a - h$ (2回)
ゴー ゴー ゴー	3	-4.5	+3.5	$d^2 - f^1 - c^2$
おかしな ゆめ	4	-4.5	+4.5	$a^1 - c^1 - a^1$
子どもの世界	4	-4	+0.5	$g^1 - h - c^1$
おかしな ゆめ	4	-4	+1	$b^1 - d^1 - e^1$
七つの子	3	-4	+1.5	$c^2 - e^1 - g^1$
友だち	3	-3.5	+4	$a^1 - d^1 - b^1$
歌のにじ	4	-3.5	+4.5	} $g^1 - c^1 - a^1$
あたらしい えがお	4	-3.5	+4.5	
あの青い空のように	3	-3.5	+5	$g^1 - c^1 - b^1$
子どもの世界	4	-3.5	+5	$a^1 - d^1 - c^2$ (3回)
つるのおん返し	4	-2.5	+4	$a^1 - e^1 - c^2$
友だちシンドバット	4	-2.5	+5	$f^1 - c^1 - b^1$
ゴー ゴー ゴー	3	-2	-5	$d^2 - b^1 - c^1$
ふじ山	3	-2	+4.5	} $e^1 - c^1 - a^1$
きょうりゅうとチャチャチャ	3	-2	+4.5	
おかしな ゆめ	4	-2	+4.5	
とんび	4	-2	+6	$e^1 - c^1 - c^2$
友だちシンドバット	4	-1.5	+4	} $g^1 - e^1 - c^2$
空に雲に	4	-1.5	+4	
空に雲に	4	-1.5	+4.5	$f^1 - d^1 - h^1$
子どもの世界	4	-1	-4	$a^1 - g^1 - h$
おかしな ゆめ	4	-1	+4	$e^1 - d^1 - b^1$ (2回)
バード ウォッチング	3	-1	+4.5	} $e^1 - d^1 - h^1$
せかいじゅうの子どもたちが	3	-1	+4.5	
かえるのふえ	3	-1	+4.5	$g^1 - f^1 - d^2$
グッデー グッバイ	4	-1	+4.5	$d^1 - c^1 - a^1$

曲 名	学年	音程 I	音程 II	使 用 音 名
歌のにじ	4	-1	+6	} $d^1 - c^1 - c^2$
グッデー グッバイ	4	-1	+6	
せいくらべ	4	-1	+6	
歌のにじ	4	-0.5	+4	$f^1 - e^1 - c^2$
さくらさくら	4	-0.5	+5	$c^1 - h - a^1$ (2回)
いろんな木の実	4	0	-5	$c^2 - c^2 - d^1$ (2回)
グッデー グッバイ	4	0	-5	$a^1 - a^1 - h$
子どもの世界	4	0	-4.5	$fis^1 - fis^1 - a$ (2回)
とんび	4	0	+4	$e^1 - e^1 - c^2$
ゴー ゴー ゴー	3	0	+4.5	} $c^1 - c^1 - a^1$
あたらしい えがお	4	0	+4.5	
友だちシンドバット	4	0	+4.5	$f^1 - f^1 - d^2$ (2回)
海風きって	3	0	+6	} $c^1 - c^1 - c^2$
林の朝	4	0	+6	
海風きって	3	+0.5	-6	$h^1 - c^2 - c^1$
せかいじゅうの子どもたちが	3	+0.5	-6	$cis^2 - d^2 - d^1$
ちびっこカウボーイ	3	+0.5	-5	$a^1 - b^1 - c^1$
七つの子	3	+0.5	-4	$h - c^1 - e^1$
子どもの世界	4	+0.5	+4.5	$h - c^1 - a^1$ (2回)
茶色の小びん	4	+1	-6	$d^2 - e^2 - e^1$
歌のにじ	4	+1	-5	} $c^2 - d^2 - e^1$
友だちシンドバット	4	+1	-5	
君が代	全	+1	-5	
ゴー ゴー ゴー	3	+1	-4.5	$c^2 - d^2 - f^1$
子どもの世界	4	+1	+4.5	$c^1 - d^1 - h^1$ (2回)
ちびっこカウボーイ	3	+1.5	+4.5	} $d^1 - f^1 - d^2$ (3回)
かえるのふえ	3	+1.5	+4.5	
おかしな ゆめ	4	+4	-4	$d^1 - h^1 - d^1$
とんび	4	+4	-2.5	$e^1 - c^2 - g^1$
空に雲に	4	+4	-1.5	$e^1 - c^2 - a^1$
歌のにじ	4	+4	-0.5	} $e^1 - c^2 - h^1$
空に雲に	4	+4	-0.5	
つるのおん返し	4	+4	-0.5	
友だち	3	+4	0	$d^1 - b^1 - b^1$
友だちシンドバット	4	+4	0	$e^1 - c^2 - c^2$

小学校教育と幼児教育の連携に関する研究 (2)

曲名	学年	音程 I	音程 II	使用音名
おかしの ゆめ	4	+4.5	-4.5	$c^1 - a^1 - c^1$
バードウォッチング	3	+4.5	-2	} $d^1 - h^1 - g^1$ (2回)
子どもの世界	4	+4.5	-2	
友だちシンドバット	4	+4.5	-2	$f^1 - d^2 - b^1$ (2回)
おかしの ゆめ	4	+4.5	-2	$c^1 - a^1 - f^1$ (2回)
子どもの世界	4	+4.5	-1.5	$c^1 - a^1 - fis^1$ (2回)
おかしの ゆめ	4	+4.5	-1.5	$d^1 - b^1 - g^1$
ちびっこカウボーイ	3	+4.5	-1	} $f^1 - d^2 - c^2$ (3回)
かえるのふえ	3	+4.5	-1	
あの青い空のように	3	+4.5	-1	} $c^1 - a^1 - g^1$
歌のにじ	4	+4.5	-1	
空に雲に	4	+4.5	-1	$d^1 - h^1 - a^1$
きょうりゅうとチャチャチャ	3	+4.5	0	} $c^1 - a^1 - a^1$
ゴー ゴー ゴー	3	+4.5	0	
グッデー グッバイ	4	+4.5	0	} $f^1 - d^2 - d^2$
かえるのふえ	3	+4.5	0	
せかいじゅうの子どもたちが	3	+4.5	0	$d^1 - h^1 - h^1$
ふじ山	3	+4.5	+1	$c^1 - a^1 - h^1$
あたらしい えがお	4	+4.5	+1.5	$c^1 - a^1 - c^2$ (2回)
あの青い空のように	3	+5	-0.5	$c^1 - b^1 - a^1$
子どもの世界	4	+5	-0.5	$d^1 - c^2 - h^1$ (3回)
さくらさくら	4	+5	0	$h - a^1 - a^1$
友だちシンドバット	4	+5	0	$c^1 - b^1 - b^1$
さくらさくら	4	+5	+1	$h - a^1 - h^1$
林の朝	4	+6	-6	$c^1 - c^2 - c^1$
とんび	4	+6	-2.5	$c^1 - c^2 - g^1$
グッデー グッバイ	4	+6	-1.5	$c^1 - c^2 - a^1$
海風きって	3	+6	-0.5	} $c^1 - c^2 - h^1$
歌のにじ	3	+6	-0.5	
せいくらべ	4	+6	0	$c^1 - c^2 - c^2$

広い音程の数	曲数	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4
20	1		子どもの世界
10	2		友だちシンドバット、 おかしの ゆめ
8	2	ちびっこカウボーイ	歌のにじ

広い音程の数	曲数	小学生の音楽 3	小学生の音楽 4
6	2		グッデー グッバイ、空に雲に
5	1	ゴー ゴー ゴー	
4	6	海風きって、かえるのふえ せかいじゅうの子どもたちが	あたらしい えがお、とんび、 さくらさくら

「よくうたわれている子どものうた50」の「ジングルベル」(14箇所)、「小学生のおんがく 1」の「どんぐるぱんくるりん」(4箇所)、「小学生の音楽 2」の「ドレミのうた」(8箇所)に比べると小学校中学年の教材は広い音程を多く使用していると言える。

おわりに

小学校教育と幼児教育の連携について、今回の小論では、小学校中学年の歌唱教材の分析を通して教材の系統性や発展性について考察することを通して論じた。その結果次のことが分かった。

- ① 旋律が伴奏にない伴奏譜に移行している。
- ② 数多くのリズムパターンが使用されるようになる。
- ③ 音域が広がる。
- ④ 広い音程を多く使用するようになる。

「音楽を感じるということは、音楽と共に息をしたり、身体を動かしたり、口ずさんだり歌ったり、端的に言って、音楽と一体化することである」とマルコム・テイト&ポール・ハック (Malcolm Tait&Paul Haack)¹⁰⁾ は述べている。小学校中学年の歌唱教材の特徴から、児童の声の幅を無理なく広げるための指導が求められていることが分かった。幼児や児童のために何が必要なのか、何が実行できるのか今後も考えていきたい。

引用・参考文献

- 1) 多保田治江「小学校教育と幼児教育の連携に関する研究—小学校低学年の歌唱教材を通して—」『北陸学院短期大学幼児児童研究所紀要』第1号2007年 P.1-12
- 2) 「小学校学習指導要領 (音楽)」文部省
- 3) 「小学生の音楽 3 指導書 研究編」教育芸術社
- 4) 「小学生の音楽 3」教育芸術社
- 5) 「小学生の音楽 4」教育芸術社
- 6) 前掲書(註1) P.3-12
- 7) 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて(4)」『北陸学院短期大学紀要』第36号2004年P.13-28
- 8) 「小学生のおんがく 1」教育芸術社
- 9) 「小学生の音楽 2」教育芸術社
- 10) Malcolm Tait&Paul Haack Principles and Process of Music Education [Columbia University Teachers College Press. 1984]『音楽教育の原理と方法』千成俊夫、竹内俊一、山田潤次訳 音楽之友社 1991年P.169